

# デーヴォ ガイド



2026.3.23-29

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(1~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

25:14 天の御国は、旅に出るにあたり、自分のしもべたちを呼んで財産を預ける人のようです。

25:15 彼はそれぞれその能力に応じて、一人には五タラント、一人には二タラント、もう一人には一タラントを渡して旅に出かけた。するとすぐに、

25:16 五タラント預かった者は出て行って、それで商売をし、ほかに五タラントをもうけた。

25:17 同じように、二タラント預かった者もほかに二タラントをもうけた。

25:18 一方、一タラント預かった者は出て行って地面に穴を掘り、主人の金を隠した。

25:19 さて、かなり時がたってから、しもべたちの主人が帰って来て彼らと清算をした。

25:20 すると、五タラント預かった者が進み出て、もう五タラントを差し出して言った。

『ご主人様。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください、私はほかに五タラントをもうけました。』

25:21 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

25:22 二タラントの者も進み出て言った。

『ご主人様。私に二タラント預けてくださいましたが、ご覧ください、ほかに二タラントをもうけました。』

25:23 主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。おまえはわずかな物に忠実だったから、多くの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

25:24 一タラント預かっていた者も進み出て言った。『ご主人様。あなた様は蒔かなかったところから刈り取り、散らさなかったところからかき集める、厳しい方だと分かっていました。』

25:25 それで私は怖くなり、出て行って、あなた様の一タラントを地の中に隠しておきました。ご覧ください、これがあなた様の物です。』

25:26 しかし、主人は彼に答えた。『悪い、怠け者のしもべだ。私が蒔かなかったところから刈り取り、散らさなかったところからかき集めると分かっていたというのか。』

25:27 それなら、おまえは私の金を銀行に預けておくべきだった。そうすれば、私が帰って来たとき、私の物を利息とともに返してもらえたのに。

25:28 だから、そのタラントを彼から取り上げて、十タラント持っている者に与えよ。

25:29 だれでも持っている者は与えられてもっと豊かになり、持っていない者は持っている物までも取り上げられるのだ。

25:30 この役に立たないしもべは外の暗間に追い出せ。そこで泣いて歯ぎしりするのだ。』

タラントは当時では億単位のお金です。私たちはそれほどの賜物、すなわち才能や可能性を神様からいただいているということです。もっと積極的な自己像を持ちましょう。

またタラント、すなわち才能や可能性は「天の御国」によって与えられるものです。すなわち救われることによって、与えられるかまたは活かされるものです。この世の人々の単なる才能とは違いますから、しっかり区別して理解しましょう。五タラントもらった者は恵まれているようです

が、それだけ大きな仕事をするのですから苦勞も大きいでしょう。神様は二タラントの者も全く同じくほめてくださいますから、賜物が多い者が恵まれているとは限りません。主のために用いることが何よりも大切なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 24日 火曜

マタイ



25:31 人の子は、その栄光を帯びてすべての御使いたちを伴って来るとき、その栄光の座に着きます。

25:32 そして、すべての国の人々が御前に集められます。人の子は、羊飼いが羊をやぎからより分けるように彼らをより分け、

25:33 羊を自分の右に、やぎを左に置きます。

25:34 それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たちが。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。』

25:35 あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

25:36 わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』

25:37 すると、その正しい人たちは答えます。『主よ。いつ私たちはあなたが空腹なのを見て食べさせ、渴いているのを見て飲ませて差し上げたでしょうか。』

25:38 いつ、旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せて差し上げたでしょうか。

25:39 いつ私たちは、あなたが病気をしたり牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』

25:40 すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』

25:41 それから、王は左にいる者たちにも言

います。『のろわれた者ども。わたしから離れ、悪魔とその使いのために用意された永遠の火に入れ。』

25:42 おまえたちはわたしが空腹であったときに食べ物を与えず、渴いていたときに飲ませず、

25:43 わたしが旅人であったときに宿を貸さず、裸のときに服を着せず、病気のときや牢にいたときに訪ねてくれなかった。』

25:44 すると、彼らも答えます。『主よ。いつ私たちは、あなたが空腹であったり、渴いていた、旅人であったり、裸であったり、病気をしていたり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったでしょうか。』

25:45 すると、王は彼らに答えます。『まことに、おまえたちに言う。おまえたちがこの最も小さい者たちの一人にしなかったのは、わたしにしなかったのだ。』

25:46 こうして、この者たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入るので。』

「世の初めから、あなたがたのために備えられた御国」とありますから、救いは主の權威によって予定されているようにも読めますが、一方「小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。」ということで決定していますから、人間の側による救いの決定というようにも読むことができます。しかもここでは信仰と行いとが一体になっています。

まさに予定論と予知論、また信仰と行いとが一体となって表現されているイエス様のたとえ話ですが、大切なことは神学ではなく、人を愛することはイエス様を愛することと同じ思いから発することです。信仰があると言いながら、苦

しんでいる人を助けないなどということは有り得ないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 25日 水曜

### マタイ

26:1 イエスはこれらのことばをすべて語り終えると、弟子たちに言われた。

26:2 「あなたがたも知っているとおおり、二日たつと逾越の祭りになります。そして、人の子は十字架につけられるために引き渡されま

す。」

26:3 そのころ、祭司長たちや民の長老たちはカヤパという大祭司の邸宅に集まり、

26:4 イエスをだまして捕らえ、殺そうと相談した。

26:5 彼らは、「祭りの間はやめておこう。民の間に騒ぎが起こるといけない」と話していた。

26:6 さて、イエスがベタニアで、ツアラアトに冒された人シモンの家におられると、

26:7 ある女の人が、非常に高価な香油の入った小さな壺を持って、みもとにやって来た。そして、食卓に着いておられたイエスの頭に香油を注いだ。

26:8 弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「何のために、こんな無駄なことをするのか。

26:9 この香油なら高く売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」

26:10 イエスはこれを知って彼らに言われた。「なぜこの人を困らせるのですか。わたしに良いことをしてくれました。

26:11 貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいます。しかし、わたしはいつも一緒にいるわけではありません。

26:12 この人はこの香油をわたしのからだに注いで、わたしを埋葬する備えをしてくれたのです。

26:13 まことに、あなたがたに言います。世



界中どこでも、この福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたことも、この人の記念として語られます。」

大祭司や祭司長また長老たちを敵にするという事は、この世では絶望的な敗北を意味していました。しかし神様にとっては、この世は限定された小さな世界にしか過ぎません。

この世の価値観だけで言うと、数百万円の価値があるだろうと思われる香油をイエス様に注ぐとは、「無駄なこと」になるかもしれません。しかしそれは、この世しか見ていない価値観です。「貧乏な人たち」を思いやる気持ちは、神様から与えられています。その神である主イエスを愛することは、人への思いやりに先行するものであり、逆に神をないがしろにするなら、それは必ず人をないがしろにすることにつながるです。

ましてやイエス様は全ての人を愛して救うために、恐ろしい十字架への道を進んでいたのです。イエス様を愛することは人をも愛することです。

ユダを含むある弟子たちはそれが分らずに、人間中心の価値観でイエス様に失望していたようです。神の永遠の価値観を人のものと同列にしてしまわないように、まず神を第一としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 26日 木曜

### マタイ

26:14 そのとき、十二人の一人で、イスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行って、

26:15 こう言った。「私に何をくれますか。この私が、彼をあなたがたに引き渡しませう。」すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。

26:16 そのときから、ユダはイエスを引き渡す機会を狙っていた。

26:17 さて、種なしパンの祭りの最初の日に、弟子たちがイエスのところに来て言った。

「過越の食事をなさるのに、どこに用意をしましょうか。」

26:18 イエスは言われた。「都に入り、これこれの人のところに行行って言いなさい。『わたしの時が近づいた。あなたのところで弟子たちと一緒に過越を祝いたい、と先生が言っております。』」

26:19 弟子たちはイエスが命じられたとおりにして、過越の用意をした。

26:20 夕方になって、イエスは十二人と一緒に食卓に着かれた。

26:21 皆が食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ります。」

26:22 弟子たちはたいへん悲しんで、一人ひとりイエスに「主よ、まさか私ではないでしょう」と言い始めた。

26:23 イエスは答えられた。「わたしと一緒に手を鉢に浸した者がわたしを裏切ります。」

26:24 人の子は、自分について書かれているとおりに去って行きます。しかし、人の子を



裏切るその人はわざわいです。そういう人は、生まれて来なければよかったです。」

26:25 すると、イエスを裏切ろうとしていたユダが「先生、まさか私ではないでしょう」と言った。イエスは彼に「いや、そうだ」と言われた。

過越しの食事とは、イスラエルがエジプトの奴隷から解放されたことを祝うお祭りの行事で、そのときイスラエルの家だけは裁きを過越されるようにと、子羊の血を入口に塗ったことを記念しています。これはまさにイエス様が、全人類の裁きを過越していただくために、血を流すことのひな型でした。イエス様はそれを知って、この過越しの食事を特別なものとして用意なされたのです。

そこでイエス様はご自分の死がどういう意味でどういう目的を持ったものなのかを、弟子たちに語りました。またユダの裏切りを知りつつ彼を行かせたことを記録して、イエス様はご自身の決心によって十字架に架かれたことが明かになっています。ご自分を裏切って死に追いやる人間と一緒に食事をするとは、何と言う寛容でしょうか。私たちのモデルがここにあります。

それらが全て人類の救いのためであり、また現に救われている私たち1人1人のためにであることを覚えて、感謝しつつイエス様の愛を心に味わいましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 27日 金曜

### マタイ



26:26 また、一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、神をほめたたえてこれを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」

26:27 また、杯を取り、感謝の祈りをささげた後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。」

26:28 これは多くの人のために、罪の赦しのために流される、わたしの契約の血です。

26:29 わたしはあなたがたに言います。今から後、わたしの父の御国であなたがたと新しく飲むその日まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは決してありません。」

26:30 そして、彼らは賛美の歌を歌ってからオリブ山へ出かけた。

26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜わたしにつまづきます。『わたしは羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散らされる』と書いてあるからです。」

26:32 しかしわたしは、よみがえった後、あなたがたより先にガリラヤへ行きます。」

26:33 すると、ペテロがイエスに答えた。「たとえ皆があなたにつまづいても、私は決してつまづきません。」

26:34 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今夜、鶏が鳴く前に三度わたしを知らないと言います。」

26:35 ペテロは言った。「たとえ、あなたと一緒に死ななければならぬとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみな同じように言った。

イエス様はご自分の十字架を理解させようと、弟子たちにパンとぶどうの盃を与えました。その時は理解できなかったでしょうが、後にはよくわかりました。このように、主のみことばは後から経験を通して悟ることがありますから、しっかりと握る必要があります。

イエス様が「あなたがたは…つまづきます。」と警告なさいましたが、ペテロは「決してつまづきません。」と、自分の信仰を過信していました。

本当に私たち人間は霊も心も弱いので、祈って神様に助けていただくほかありません。決して高ぶらないように、また安心しきらないようにしましょう。

主イエスの思いを教えていただくには、自分の力では不可能で、聖霊様により頼む以外ありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 28日 土曜

### マタイ

26:36 それから、イエスは弟子たちと一緒にゲツセマネという場所に来て、彼らに「わたしがあそこに行って祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。

26:37 そして、ペテロとゼベダイの子二人と一緒に連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。

26:38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここにいて、わたしと一緒に目を覚ましていなさい。」

26:39 それからイエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈られた。「わが父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにはなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」

26:40 それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らが眠っているのを見、ペテロに言われた。「あなたがたはこのように、一時間でも、わたしとともに目を覚ましていられなかったのですか。」

26:41 誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は燃えていても肉は弱いのです。」

26:42 イエスは再び二度目に離れて行って、「わが父よ。わたしが飲まなければこの杯が過ぎ去らないのであれば、あなたのみこころがなりますように」と祈られた。

26:43 イエスが再び戻ってご覧になると、弟子たちは眠っていた。まぶたが重くなっていたのである。

26:44 イエスは、彼らを残して再び離れて行



き、もう一度同じことばで三度目の祈りをされた。

26:45 それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されます。」

26:46 立ちなさい。さあ、行こう。見なさい。わたしを裏切る者が近くに来ています。」

イエス様の祈りは単に苦しみでの祈りではなく、「悲しみ」の祈りでもありました。それは愛する御父から見捨てられるという悲しみと思われれます。ご自分が最も辛い時に、最愛の父から見捨てられるのです。なんと悲しさでしょう。

その悲しみを越えて、イエス様は私たちを愛してくださったのです。また御父はご自分の子を犠牲にして私たちを救ってくださったのです。

弟子たちは、イエス様が「悲しみのあまり死ぬほど」の祈りをしているときでさえ、眠ってしまいました。これは私たちの姿でもあります。このような愛に対しても、心が眠ってしまっていると感じられないのです。主の愛に対しては、いつでもその思いを感じられるものでありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 29日 日曜

### マタイ



26:47 イエスがまだ話しておられるうちに、見よ、十二人の一人のユダがやって来た。祭司長たちや民の長老たちから差し向けられ、剣や棒を手にした大勢の群衆も一緒であった。

26:48 イエスを裏切ろうとしていた者は彼らと合図を決め、「私が口づけをするのが、その人だ。その人を捕まえるのだ」と言っておいた。

26:49 それで彼はすぐにイエスに近づき、「先生、こんばんは」と言って口づけした。

26:50 イエスは彼に「友よ、あなたがしようとしていることをしなさい」と言われた。そのとき人々は近寄り、イエスに手をかけて捕らえた。

26:51 すると、イエスと一緒にいた者たちの一人が、見よ、手を伸ばして剣を抜き、大祭司のしもべに切りかかり、その耳を切り落とした。

26:52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに収めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。」

26:53 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今すぐわたしの配下に置いていただくことが、できないと思うのですか。

26:54 しかし、それでは、こうならなければならないと書いてある聖書が、どのようにして成就するのでしょうか。」

26:55 また、そのとき群衆に言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしを捕らえに来たのですか。わたしは毎日、宮で座って教えていたのに、あなたがたはわたしを捕らえませんでした。」

26:56 しかし、このすべてのことが起こったのは、預言者たちの書が成就するためです。」そのとき、弟子たちはみなイエスを見捨てて逃げてしまった。

イエス様には、かつては大勢の群衆が従っていましたが、今や群衆は敵となりました。国の指導者たちは殺意に燃え、さらには愛した弟子の一人であるユダにまで裏切られました。

しかしイエス様は強い決意によって、戦うことも防衛することもなさいませんでした。ご自身が十字架に架かれるという大いなる使命があったからです。

私たちはこのような主イエスの愛と強さの御思いを忘れずにいたいものです。またこの世の悪や矛盾に直面するとき、決してこの世の戦いの論理ではなく、イエス様の愛の力で勝利できることを信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

